

佐渡の廃校を酒蔵に

FBI

本気の仕事講座 ③

新潟県佐渡市に「真野鶴」で知られる老舗蔵元「尾畑酒造」（1892年創業）がある。日本酒に欠かせない要素「コメ」「水」「人」に「佐渡の風土」を付加した4つの宝、その和をもって酒を醸すという志を『四宝和醸』という言葉に込め、昔ながらの酒造りに取り組んでいる。全国新酒鑑評会で2001年以降10回の金賞、ロンドンで開催される「インターナショナル・ワイン・チャレンジ」でも07年、14年とゴールドメダルに輝く。今回の主人公は、尾畑酒造専務取締役の尾畑留美子氏だ。

慶応大を卒業後、日本 Herald 映画（現角川映画）入社、「氷の微笑」「レオン」などの宣伝プロデュースを担当。1995年に尾畑酒造社長・平島健氏と結婚、72日間酒をめぐる世界半周の旅を執行して、生まれた蔵に戻る。SAKEは今や世界共通言語。小さな島での酒造りを世界のマーケットで語ることが面白くて仕方ない。



「壁は越えたいからできる」を信条とする尾畑酒造専務取締役の尾畑留美子さん

10年前、貿易会社を介さず直接、海外のローカルパートナーと取引することは夢物語だと周囲から言われた。「壁は越えたいからできる」を信条としている。前進するから壁ができる。従って壁とは進行の証しに他ならない。

日本貿易振興機構（JETRO）のセミナーに参加し、英語版HPを立ち上げるなど地道な努力を重ねる。程なくしてアメリカからメールが届き、50万の発注となった。ワールドワイドな視点は、幼少のころから兼高かおる氏をロールモデルにしてきた影響も強い。現在ではアメリカほか12カ国と取引をしている。「継続」を念頭に、目先よ

り10年、20年後を考えてきた。

「学校蔵」プロジェクトはその象徴。佐渡に「日本で一番夕日がきれいな小学校」と言われた西三川小学校があったが、4年前に136年の歴史に幕を下した。尾畑酒造はこの廃校を酒蔵としてよみがえらせるプロジェクトに着手。新しい学校の「校訓」は幸せを醸す酒造りという思いを込めて「幸福心」。学校蔵は理科室と理科準備室を改造してタンクを2基置き、仕込みを終え、11月から学校蔵ブランドの発売を開始した。学校蔵プロジェクトはさまざまな展開を考えている。酒造りを学べる場として、今後は国内外から希

柴田明彦（しばた・あきひこ）



1959年、東京生まれ。亥年、乙女座、AB型。慶大法卒。83年電通入社、新聞局業務推進部長などを歴任し、2006年退社。一般社団法人「NS人財創造機構」を設立し、大学講義や講演会、研修を行う。14年に設立した「多様性工房」で、広報・宣伝や販売コンサルティングも手がける。著書は「ビジネスで活かす電通鬼十則」（朝日新書）ほか。

望者を受け入れ、さまざまな属性の人たちが交流する拠点としていく。

また、佐渡はトキでも有名。環境の島としてプールに太陽光パネルを設置し、再生エネルギーを取り入れた酒造りを東大と共同研究中だ。島を元気にして自立と自律を生み出すことに余念がない。経済協力開発機構（OECD）の元科学技術顧問、エーリッヒ・ヤンツ氏は「進化とは、常に知的であり続ける宇宙が、本能的に持つ遊び心の表れである」と言った。学校蔵プロジェクトにワクワクするような進化の胎動を感じる。なぜなら、そこには未来からの留学生が結集するからだ。